

(様式第4号)

第9回 武石地域協議会 会議概要

1 審議会名	武石地域協議会
2 日時	平成30年12月19日 午後7時00分から午後8時55分まで
3 会場	武石地域自治センター2階 第1会議室
4 出席者	池内俊郎会長、大草ひろみ副会長、浦部秀幸委員、金井修一委員、金子るり子委員、小池文男委員、小山ひとみ委員、櫻井照子委員、桜井保子委員、鈴木三千夫委員、高橋みち子委員、滝沢友子委員、廣田百合子委員、山岸誠委員、山口英宏委員【欠席委員5名】
5 市側出席者	石井地域自治センター長、金子地域振興課長、宮越教育事務所長、佐藤市民サービス課長兼武石診療所事務長、小山事務長補佐、深井看護師長、滝沢産業建設課長、宮下商工観光担当係長、堀主事、坂部地域政策担当係長、依田地域担当、掛川主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成31年1月22日

協議事項等

1 開会(大草副会長)

2 あいさつ(池内会長)

3 協議・報告事項

(1) 武石診療所の現状について(報告)(市民サービス課説明)

・武石診療所の概要、外来患者の内訳や推移、経営及び基金の状況、診療所のあり方の検討について説明【質疑・意見等】

(委員) 外来患者数と外来実人数の違いは何か。

(診療所) 外来患者数は件数、外来実人数は実際の人数である。例えば、同じ人が同月に2回受診すると、外来患者数は2人、外来実人数は1人となる。

(委員) 基金の状況を見ると、数年後には基金は底をついてしまうが、その時の対策は何かあるか。

(診療所) 診療所の今後のあり方を検討し、患者の増加策を図り、基金を温存しながら経営改善に努めていきたい。基金がゼロになったときは、一般会計からの繰入をお願いすることになると思う。

(委員) 基金は、いざというときのためにできるだけとっておいた方がよいと思う。積立はできていないのか。

(診療所) 運用益を積立しているが、額が少ないため、グラフではゼロに近い状態。運用益は、平成28年度55,000円、29年度44,000円程度である。

(委員) 依田窪病院との再合併という話はあるのか。今後の連携については、検討しているか。

(診療所) 依田窪病院も医師確保に苦慮しており、内科医5人で経営している。医師の相互派遣を考えた時期もあったが、互いに経営状況が厳しく、先に進んでいない状況である。今後は、依田窪病院と互いに助け合うことも考えていかなければいけないと考えている。

(委員) 合併前までは、基金の積立を少しはできていたようだが、合併後積立ができなくなった理由は何か。

(診療所) いちばんの理由は、患者数の減少による診療報酬の減少である。加えて、基金の運用益が平成18年までは1,000~2,000万円程度あったが、利息分もだんだん減少し、ここ10年で40~50万円と

いう状況である。

(委員) 基金を上田市の方へ繰り入れているということはあるか。また、基金の財源は何か。

(診療所) 市への繰入はない。診療所は特別会計で運営しており、基金も診療所独自の基金である。財源は、診療所開設時からの診療報酬や地方交付税などの積立。当時は患者数も多く、長和町からも患者さんが来ていた。

(委員) 自分も診療所があっても、依田窪病院や丸子の病院へ行ってしまふ。診療所の良さ、利用しやすさをもっとPRしたらどうか。

(委員) デマンドバスでも行かれるのか。

(委員) 行かれる。

(2) 新生「上田市」建設計画の答申について(協議)(地域振興課説明)

・ 前回協議会で質問のあった、合併特例債のメリットや上田市の財政状況について説明

【質疑・意見】

(委員) 平成30年度以降の財政状況について資料から推移してみても、おおむね健全に運営されるだろうと予想できる。前回、唐突な説明であり、理解するのが難しかったため、あえて難しい質問をしたが、非常にわかりやすい資料と説明に感謝する。

(会長) 事務局で、答申書(案)を作成していただいたが、ご意見等はあるか。

(委員) サントミュージゼは、長野県内で最も大きい文化施設だと思うが、今後、庁舎の建替えもあり、財政状況が悪化するのではないか。

(委員) 前回いただいた資料は、それらが含まれた数字になっていると思う。

(委員) サントミュージゼは、現時点で赤字ではないのか。

(委員) サントミュージゼのような貸ホールは、どこも赤字だと思う。市長もサントミュージゼの維持管理費については抑制していくと言っていた。

(会長) 事務局案のとおり答申したいと思うが、いかがか。

- 反対意見なし -

(会長) 事務局案のとおり、答申する。

(3) 指定管理施設「雲渓荘」について(協議)(産業建設課)

・ サウンディング型市場調査の内容とスケジュールについて説明

(センター長) 地域協議会からの意見とサウンディング型市場調査による民間からの提案をもとに、庁内で検討し、方針を決定していく予定である。

【意見等】

(会長) 現地視察から、飲料水の滅菌装置、源泉ポンプの更新や修繕ほか、トイレ付客室への改修やエレベーターの設置の要望等、課題が多い。また、耐震診断も未実施で、診断だけで2,600万円、耐震工事をやるとすれば、さらにお金が必要になる。練馬区の指定保養施設でもあるため、練馬区から基準を満たす努力をしてもらいたいという要望も出ているとのこと。また、冬場は利用が少ないにもかかわらず、燃料代がかさんでいるとのこと。

(委員) 冬場の利用が少ないようなら、冬季閉鎖することは可能なのか。

(委員) 余里の花桃の花見客にうつくしの湯の利用補助券を配布しているが、雲渓荘も宿泊利用補助券500円分などを配布したらどうか。

- (委員) ポイントカードの導入はどうか。長和町でやっている。
- (委員) うつくしの湯ではやっているが、あまり認知されていない様子。
- (会長) 雲溪荘の話では、日帰りの宴会利用は利益が少ないとのことである。
- (産業建設課) 宴会利用の場合、料理代に入浴代と入湯税も含まれてしまうため、実質料理代はマイナス500円になってしまう。料理の質をあげると利益にならないのが実情である。
- (委員) 宿泊施設とするならば、大規模な施設改修をしなければクレームが来るだけだと思う。改修ができないのであれば、規模を縮小して日帰りで利益を上げる方法がよいと考えていたが、今の話だとやりようがない。
- (委員) 冬は利益が上がらないのであれば冬季閉鎖して、人手不足のスキー場に来てもらった方が助かるのではないか。
- (委員) 料理は、刺身やすき焼きではなく、山菜や野沢菜、キノコなど武石の特色ある料理を出した方がよいのではないか。
- (委員) 一般的な料理より、春は山菜、夏はイワナ、秋はキノコなど、武石独自の料理の方が都会や市内から来た人は喜ぶと思う。
- (委員) 雲溪荘は、源泉かけ流しか。
- (産業建設課) 源泉かけ流し+循環湯で、沸かしている。
- (委員) 昼間、温泉へ行くとしたら、ゆっくりできてつまみがあるところがよい。遠かったり入館料が高くて、食堂が充実しているところがよい。薬膳料理を出すなど、施設の特徴を出したらどうか。
- (委員) 朝鮮ニンジンやキクイモ、ダツタンソバをメニューに取り入れても面白いのではないか。話題性や魅力も必要だと思う。
- (会長) 設備的なことで何かご意見はあるか。
- (委員) 冬に雲溪荘に泊まったことがあるが、暖房から遠い人は寒くて眠れなかった。
- (委員) やはり改修なしで存続していくことは難しい。
- (委員) 存続させたいと思うが、決めるだけの決め手がない。
- (委員) お風呂にイルミネーションが設置されているが、都会からの訪問客がない方がよいと言っていた。外の景色が見えた方がよい。
- (委員) お風呂に展示されていた写真はよいと思った。
- (委員) 練馬区以外の地域の保養施設には指定してもらえないか。
- (産業建設課) 上田市とパートナーシップ協定を結んだ市と指定保養施設の打合せを行う予定。
- (会長) 事務局と相談し、内容を集約したい。継続するための設備改修、運営に対する事業団の役割の明確化、経営の効率化、販管費の圧縮と売上増加策、SNS の利用、広報宣伝の工夫、都市部への売り込みなど、今まで出た意見をまとめ、次回地域協議会で皆さんに見ていただきたい。

(4) その他

まちづくり講演会のお知らせ

日時：1月30日(水)午後1時30分～ 場所：上田文化会館ホール

演題：『地域の持続発展のためには、「攻めの住民自治」』 講師：福井 隆氏

松枯れ予防樹幹注入作業への協力について

作業日：1月8日(火)～10日(木)

次回会議の開催について

日時：1月23日（水）午後7時～ 場所：武石地域自治センター2階第1会議室

5 閉 会（大草副会長）